

自分の暮らしに生かす福祉制度

講座 2 「障がいのある方の福祉制度」

演習 2 「障がい者福祉サービスの利用」

講師 広島市こども療育センター地域支援室 指導員 鈴木秀穂

1 『学んでほしいこと』

障がいのある方への福祉制度や福祉サービスは、自己申請が原則となりながらも制度自体が複雑で、その情報量も大変多いものとなっています。情報社会と言われながら、はんらんする情報の中から、障がいのある方が自ら「情報を選択し、活用する」ことの難しさがあります。

今回の講座や演習では、「私はこんな生活がしたい」「僕はこんな夢を実現したい」という自分の思いに気づいていく取り組みからスタートして、その実現に必要な制度やサービスを、情報機器（パソコンとインターネット）を活用して、情報収集の方法（情報のある場所を知ること）を学んでほしいと思います。

併せて、サービスや制度の利用を考えていく中で、「何を助けてもらいたいのか」「自分でどこまでできるのか」など、自分の現在の環境や生活の状況を振り返り、今後の生活に向けて考えていく機会になればと思います。

2 『学びのポイント』

- (1) 資料から障がいのある方への福祉制度や、福祉サービスの種類などを知っていきます。自分が所持している手帳（療育・精神）で利用できる制度について知っていきます。
- (2) パソコンなどの情報機器（インターネット）に触れ、それらの情報を機器を使って実際に探していく経験をします。
- (3) 生活チェック表で、自分の生活を振り返り、現在の状況（自分の持っている力）を知る機会を作ります。
- (4) これから自分のやってみたいこと、実現したいことを整理表に書いていくことで、自分のニードの整理をします。
- (5) ニードの実現に向けて、自分の持っている力をチェック表で確認しながら、どこに支援が必要か考えていきます。必要な支援を情報機器などを利用して探していきます。時間的に可能であれば、利用の計画を立てます。
- (6) 今回の講座や演習をきっかけにして、今後の福祉制度やサービス利用の関心を高めていきます。

3 『支援のポイントとテキストの活用方法』(SP=Support Point)

講座 2

《SP1》支援者の配置

パソコンでの情報検索など、機器の操作に関しては、初めて機器に触れる方が大半と思われるので、身近にいる支援者が、その方法を教えるなどの補助を行ないます。

テキスト1の生活チェックシート「自分の生活をふりかえってみましょう」の記入に関して、難しい人は、身近な支援者が聞き取りを行い、整理をしながら記入をします。支援者と一緒に整理しても難しい場合は、手を挙げてもらいます。手が上がった人には講師が支援者とともに対応します。

《SP2》テキストの進め方（資料の活用）

講座での配布資料は以下の通りです。

- ・ 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳所持者の主要福祉便覧(「障害のある人びとの福祉 2010」広島県健康福祉局より。広島県ホームページより引用)
- ・ 精神障害者保健福祉手帳所持者の福祉便覧(広島市ホームページより引用し作成)
- ・ かけはしリーフレット(広島県社会福祉協議会ホームページ)
- ・ 「障害者自立支援法における障害福祉サービス」(広島市立特別支援学校進路部作成資料)
- ・ 福祉サービス利用の手続きについて(講師作成)

紙面での各種資料で、どのような福祉制度、福祉サービスがあるのかを知り、その利用への手続きまでを知ることが目的とします。

はじめに、自分が所持している各種手帳(療育・精神)でどのような制度が利用できるのか資料で確認します。全ての制度、サービスの情報を講座の時間で知りえることは難しさがありますので、講座後も活用できるよう紙面での配布としました。資料には可能な限り、ルビを入れました。

演習でも利用する「障がい福祉サービス」については、インターネットでも情報収集の方法を知っていきます。

《SP3》テキストの進め方1

テキスト1 「自分の生活をふりかえってみましょう」(生活チェックシート)は、サービスや制度の利用を考える演習を行なう前に、自分自身でできる部分や、支援の必要な部分について気づいていくことを目的とします。

日常生活の様々な場面を、「生活基盤のこと」「健康」「生活動作」「対人」「社会生活」「社会参加」の項目に分類して、それぞれに対して3段階で自己評価します。できない部分に目を向けるのではなく、「どこができているのか」を

知ることにもつながればと考えます。時間があれば、自由記述の欄は支援者と、ニード整理のために利用します。

演習 2

《SP1》支援者の配置

講座2と同様に、テキストの記入に関して、難しい人は、身近な支援者が聞きとりを行い、整理をしながら記入をします。支援者と一緒に整理しても難しい場合は、手を挙げてもらいます。手が上がった人には講師が支援者とともに対応します。

《SP2》テキストの進め方2

テキスト2 「これからやってみたいことを書いてみましょう！」(ニード整理表)では、「私はこんな生活がしたい」「僕はこんな夢を実現したい」という思いを書いてもらいます。最終的に演習で計画を立てるためにテーマを一つに絞りますが、初めからやりたいことを絞ることが難しい人が大半と思われるので、やりたいことを自由に書き出してみることに目的をおきます。進め方については以下の通りになります。

- ① はじめに、「やってみたいこと」を書き込みます。整理が難しい方は、記入例を参考に支援者と一緒に書き込みます。
- ② 次に「それをするのに不安なこと」「助けてもらいたいこと」を項目ごとに記入します。その際、講座2で使用した生活チェック表「自分の生活を振り返ってみましょう！」で、自分のできる部分を確認しながら記入します。
- ③ 時間があれば「助けてくれそうな人・使えそうなサービス」の欄に、資料などを見ながら記入します。

この時点で、受講者の進度に差ができると思われるですが、①の「やってみたいこと」の書き出しまでは、記入例を参考に支援者と一緒に進めていただければと考えます。

《SP3》テキストの進め方3

テキスト3 サービス利用計画「ニードの実現に向けて」、テキスト2の中から「やってみたいこと」(目標)を、1つ選んでサービス利用の計画を立てていきます。

テキストは以下の通りに記入していきます。

- ① 「目標に必要なこと」をあげていきます。目標を達成するために、何が必要かを考えて記入していきます。難しい場合は記入例を参考に、支援者と記入します。
- ② 「目標に必要なこと」に対しての「自分の状態」を、講座2で使用した生活チェック表「自分の生活を振り返ってみましょう！」で記入したこ

とを参考にして、自分のできる部分、支援の必要な部分、もっている力を確認しながら記入します。

- ③ 「どうしたらできそう？」では「自分の状態」を見て、工夫したらできそうなこと、必要な支援を記入していきます。難しい場合は記入例を参考に支援者と記入していきます。
- ④ 「助けてくれる人・回数・場所」は講座で配布した資料を参考に、利用できそうな制度、サービスを記入します。インターネットを利用したいサービスの情報を得ていきます。機器の操作が難しい人は、支援者に協力してもらいながら探していきます。福祉サービスに限らず、家族や地域の人、友人などインフォーマルな資源も記入していきます。

《SP4》テキストの進め方3

テキスト4 「週間サービス利用表」は、サービス利用のより具体的な計画になります。サービス利用計画の「助けてくれる人・回数・場所」の記入から、福祉サービスを利用する時間、曜日などを記入していきます。

4 『資料の紹介』

- ① 「心身障害者 福祉のしおり（平成22年度版）」広島市健康福祉局障害福祉部 障害福祉課
- ② 「'10 保健・福祉の手引」広島市健康福祉局
- ③ 「障害のある人びとの福祉 2010」（2010）広島県健康福祉局
- ④ 「福祉サービス利用援助事業リーフレット（かけはし）」広島県社会福祉協議会

5 『講師の感想』

今回の講座や演習は、福祉サービス、制度の利用を「こんな生活を送ってみたい」「こんな夢を実現したい」という一人ひとりの願いから出発して、自分には、どんな支援が必要なのか考えていく方法で進めていきました。

福祉制度やサービスの利用の仕組みは複雑、範囲も広く多岐にわたります。資料を見ただけで、「難しい」と感じてしまうことが多いのですが、自分のしたいこと（ニード）から始めていくことで意欲的に、興味関心をもって取り組んでいただけたと思います。時間の関係上、十分なサービス利用計画を立てるまでにはいたりませんでした。サービス利用を考えるきっかけ作りにはなったように思います。

ニードを考える前に、生活チェック表（「自分の生活をふりかえってみましょう」）をつけたことは、自分の現在の状況を知る上で良い内容だったと思います。今後の課題として、チェックの選択肢の数と表現に工夫が必要なこと、演習のテキストとの関係をどう高めていくかなどが挙げられます。

講座や演習の時間数に対してテキストに記入することが多かったのも、個人での取り組みが多くなりました。グループで話し合う、お互いに意見交換する

などの場面を設定することで、計画に対する深まりも作れていけたのではと反省しています。

いろいろ課題も見つかりましたが、個人的には講座と演習を通して、本人二
ードの重要性をあらためて気づかされた時間であったと思います。ありがとうございました。